

北海道算数数学教育会小学校部会会報

臨時号

56・7・20

北海道算数数学教育会  
小学校部会発行

## さんすう

## 入会のお誘い

北海道算数数学教育会

小学校部会長 池田公夫

北海道算数数学教育会小学校部会が、会員制をとって本年は4年目になります。皆様の深いご理解と熱意によって、現在、会員数はすでに200名をこえております。

昨年度は、札幌支部につづいて石狩支部が発足し、本会が組織的にも充実してまいりました。

また、会員の皆様のお手元にとどけられます会報「さんすう」も研究の方向や視点、日常実践の交流を主たる内容として第12号を発行するまでになりました。

本会は内容的にも組織的にも充実しますます盛んになりつつあります。

昭和55年度からは、『豊かな人間性を育てる算数教育』を主題とし、「子どもに学びとらせる教材の構成と学習の展開」を副主題として3年計画の研究が進められ、実践交流が行われております。

そこで、会員の皆様には、引き続き会員としてこの今日的な課題の究明にご尽力をいただき本会の充実と発展を念願し、お近くの方々にお誘いいただきますようお願い申し上げます。

会員としてのメリットとしまして、会報「さんすう」（年4回発行）がとどけられ研究の方向や視点、全道の実践研究のようすを知ることができます。また、本会が軌道に乗ってまいりましたので、大会当日の参加費の割引が可能になってまいりました。

本道小学校算数教育の発展のため、全道各地の先生方の入会をお誘い申し上げます。

## 1. 本会の性格と成り立ち

私ども北海道算数数学教育会は、戦前より活発な研究活動を進めてまいりました。

北海道数学会（主として旧制中学・大学の先生で構成）と、北海道算数教育連盟（主として小・中学校の先生で構成）が戦後一体となり誕生した研究団体であります。

小・中・高の教師が一体となり、算数数学教育の質的発展と互いの数学的資質の向上を願って集り研究交流の会であり、日本数学教育学会の賛助支部でもあります。

数多くの諸先輩の永年のご尽力により、活動はますます活発となり、組織も拡大され、小学校部会では、昭和53年第33回札幌大会から会員制をとり入れ、日常実践の交流は全道各地にその輪を広げるまでになりました。

## 2. 本会の活動状況

全道大会が年1回（9月）開催されます。時に、この大会は、開催地を札幌と各地とを交互に決めて開催されます。

大会では、「実践成果の発表と討議を行うことにより、全道的に算数数学の研究意欲を高めかつ算数数学教育の充実を推進する」という趣旨のもとに、全道各地より多数の先生方の参加をいただき、授業の実際や研究発表・講演などで、その交流を深めてまいりました。

## 北海道算数数学教育会小学校部会会則

### 1, 名称と目的

本会は、北海道算数数学教育会小学校部会といい、本道小学校算数教育の振興を図るをもって目的とする。

### 2, 事業

本会は、目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 研究会を年1回以上開催。
- (2) 本道の算数教育振興のための必要な調査研究。
- (3) 会報の発行。
- (4) 講習会・講演会の開催。
- (5) その他、本会の目的達成に必要と認められる事業。

### 3, 会員

- (1) 正会員——本道小学校、その他これに準ずる学校の教職員。
- (2) 賛助会員——本会の目的に賛同するもの。

### 4, 組織

- (1) 本部——本会の本部は、札幌におく。
- (2) 支部——本道各地に支部をおくことができる。

### 5, 構成及び任務

- (1) 部会長——1名、本会を代表する。
- (2) 副部会長——6名、部会長を補佐する。
- (3) 会計監査——2名、会計の監査をする。
- (4) 代議員——若干名、北海道算数数学教育会の代議員会に出席する。
- (5) 常任幹事——若干名、本会の運営にあたりるとともに、北海道算数数学教育会の常任幹事会に出席する。
- (6) 事務局員——若干名、事務局の運営にあたる。
- (7) 顧問——若干名、部会長の諮問に応じ、意見をのべる。

### 6, 選任

- (1) 正・副部会長及び会計監査・代議員は、常任幹事会で選出し、総会で承認を得る。
- (2) 常任幹事及び事務局員は、部会長の委嘱による。
- (3) 顧問は、総会において委嘱する。

### 7, 任期

役員は任期は2ケ年とする。但し再任を妨げない。

### 8, 会議

- (1) 総会——研究大会の折に開催し、部会の組織及び運営について協議する。
- (2) 常任幹事会——正・副部会長及び常任幹事をもって構成し、会の事業を執行する。

### 9, 会計

- (1) 本会の会計は、会費・事業収入及び寄附金により執行する。
- (2) 会費は、正会員・賛助会員とも年額1000円とする。

### 10, 事務局

- (1) 事務局長・事務局次長は、常任幹事中より部会長が委嘱する。
- (2) 事務局は、事務局長在勤の学校におく。
- (3) 事務局に次の5部をおく。  
庶務、会計、研究、調査情報、組織

### 11, 年度

本会の事業及び会計年度は、5月に始まり翌年4月に終わる。

### 12, 会則の改廃

本会則の改廃は、総会の決議による。

### 13, 付則

本会則は、昭和53年9月21日から施行する。昭和56年9月17日会則一部改正。

昭和55・56・57年度研究主題について

## 豊かな人間性を育てる算数教育

—子どもに学びとらせる教材の構成と学習の展開—

## 北数教小学校部会研究係

昭和53年より本会が会員登録制となりましたので、研究主題に迫る日常実践やそれについてのお互いの交流がより充実していくのではないかと考えます。また、三年計画で研究が進められるようになりましたので、積みあげがより確かなものになっていくだろうとも考えます。

このように、北数教の会が組織化され、研究活動がより充実されてくることをふまえて、それにふさわしい研究主題を設定しなければならぬと考え、昨年から取り組んでまいりました。

54年7月に、会員の諸先輩の方々から「これからの算数教育の課題は何か」というテーマで意見をいただきました。(旭川大会での機関紙「北海道算数」にその内容を記載)それらのご意見からも参酌させていただき、また、研究委員会等でも検討を加えて主題の設定にあたってまいりました。

54年の2月大会に、この新しい研究主題を提示し、授業と研究発表によって具体的な研究の方向性を探っていただきました。

今後、9月大会より、第一次実践交流が本格的に開始されるわけですが、会員のみなさまの相互交流により、仮設的実践交流、実証的実践交流、そして集約へと3ヶ年の積み上げを確かなものにしたいと願っております。

## I 主題について

## 1. 設定の理定

科学技術が著しく進歩した現代社会ではあるが、ともすると見落しがちであった、ひとりひとりの人間性が問われてきている。このような今日、学校教育に期待されている最も大きな課題は、豊かな人間性をそなえた児童の育成である。

学校教育が問い直される中で、教育課程の基準が改定され、学校における全教育活動は

児童の豊かな人間性の育成をめざして営まれることが一層強調されている。児童の人間形成の一翼を担う各教科指導においてもこのような視点に着目することの必要が強く問われている。今回の学習指導要領の改訂は、これまでの算数教育の基本的な考え方を受けつぎながら内容の再構成を行い、その目標達成を通して豊かな人間性の育成に寄与することが望まれているのである。

本会では、これまで「楽しく学ぶ算数学習の展開」を統一主題に、数学的な考えを育てるという基本姿勢の上に、数理を創り出す楽しさのある学習を追求してきたのである。

そこで、楽しく学ぶことによって培われる人間性に着目して、これまでの研究をさらに発展させたいと考え、本主題「豊かな人間性を育てる算数教育」を設定したのである。

## 2. 解説

人間性の豊かさとは何かを問われると、そのとらえ方を一口には言い難いであろう。また、豊かさを育てる営みはそれぞれの教育的意図によって切り込む視点にちがいがあろう。ところで算数科でねらう豊かさとは何であろうか。

それは端的に言い表すと、柔軟な頭脳で、対処したり、直勘を働かせてアイデアを生み出すことであり、事象を抽象し論理的な見方によって簡潔、適切な処理の仕方のよさを感じ得ることであると考えられる。

このような算数で培う豊かさは、児童の人間形成を啓発し、自ら考え、正しく判断できる力や創造的な活動のできる力の育成に通づるものであろう。

そこで、児童の人間形成の上で算数の受け持っている役割をみつめなおし、豊かな人間性を強調する算数教育をめざしたいと考えた

のである。

従って、この主題は本会の今後の実践研究のめざす目標であると同時に、算数教育のめざす今日的な教科像ともとらえることができる。このような着眼によってこれまでの算数学習をみなおし真に主題の実現に迫るために具体的な研究内容と方向を副主題と合わせて設定したのである。

## II 副主題について

### 1. 設定の理由

学習の主体者は子どもである。このことは従来からも強く呼ばれ数多くの日常実践でその努力を重ねてきたところである。しかし、まだまだ不十分ではないだろうか。ひとりひとりの子どもが生き生きと自分の力を出し切って満足する学習を構成するまで至っていないのではないだろうか。学習の主体者である子どもが真に学びとっていくことを通して、豊かな人間性が育てられると考えるならば、このみなおしは重要である。

子どもが学ぶとは何か、どのような行為であるのか、日常言い慣れた「学び」の様相に深くメスを入れることが必要であろう。

また、「子どもの側に立つ学習」とか「子どもを中心にすえた学習」といわれる意味を深く理解しなければならないと考える。

その上で、教材のとらえ方、与え方を研究し、教師の役割は何かとともにひとりひとりの子どもが意欲を燃やして学習に取り組み、学習の主体を自覚し、算数を学ぶことの楽しさ、よさに浸れるような学習展開のあり方を究明したいと考えたのである。

そこで、子どもが学ぶとは何かを明らかにしながら、算数学習のあり方をみなおしそれにふさわしい教材をどのように構成すべきかを明らかにしていきたいと考え「子どもに学びとらせる教材の構成と学習の展開」を副主題として設定し、主題である「豊かな人間性を育てる算数教育」の実現に迫りたいと考えたのである。

## 2. 解説

### (1) 子どもに学びとらせる教材の構成

子どもの興味・関心・疑問・能力など、子どもなりの論理性を十分把握する必要がある。我々大人の感覚や算数数学の体系上からだけの大人の論理でなく、子どもなりの論理性を充分把握して教材を構成しなければならないと考える。

また、これまで研究されてきた教材の精選・吟味・開発などの考え方を生かし、さらに、豊かな人間性を育てるという窓からみた教材の教育的価値づけを明らかにして、子どもに学びとらせるにふさわしい教材を構成しなければならないと考える。

特に重要視したいのは、子どもをみつめることである。子どもなりの論理はどう進むのか。子どもの可能性はどうかなど充分把握することが大切であると考える。

- {子どもに学びとらせる教材}---
- ・学習に興味・関心、必要感のある教材
  - ・課題性があり、子どもたちに解決意欲を起こさせる教材
  - ・達成可能感があり、適度な抵抗のある教材
  - ・多岐的な見通しや解決方法が生まれ、思考に広がりをもたせる教材
  - ・子どもの心に葛藤を起こさせ、子どもたちがねりあげていける意味豊かな教材
  - ・発展性があり、疑問や問題点が生まれる教材など

以上のようなこれまで研究されてきた教材化の条件が、ここに発展的に生かされ、子どもの側に立ち、子どもに学びとらせるための教材のとらえ方、与え方などを究明していきたいのである。

## (2) 子どもに学びとらせる学習の展開

学習の主体者は子どもであるので、子どもがみつけ出し、創り出していくような学習の展開をめざし、子どもを受動型から能動型へ引き上げ、いかにして学びとらせるような学習を展開すべきかを明らかにしていきたいのである。

そのためには、教材の構成と関わるところが大きいと考える。また、子どもが活動する場の設定の仕方も検討すべきようである。ひとつの教室の中で、多くの子どもたちがいっしょに学習することのよさも考えるならば、子どもに学びとらせる学習の展開として学ぶ個と集団の関わり合いも重要な視点となるであろう。さらに重要なのは、教師の役割であると考え。子どもの活動が活発になればなる程、その役割は重要になってくることをふまえていかなければならないのではないだろうか。

---{子どもに学びとらせる学習}---

- ・結果を得ることより、それに至る過程を大切に学習
- ・子どもが、目的や必要感をもって取り組む学習
- ・子どもが自分の力で、既習の学習を駆使したり、数学的なアイデアを生かして学びとっていく学習
- ・個々の考えが全体の中に位置づけられ、子どもたちがねり合い、仕上げていく学習
- ・子どもが、学びとった喜びを感じたり、自分なりに評価できる学習
- ・新たな疑問や問題点をみつけ出し、次への学習意欲がもてる学習
- ・教師の助言・指導・軌道修正・問題提起など、子どもへのはたらきかけが適切な学習など

これまで研究されてきた、主体化の条件 個と集団の条件、指導的条件がここに発展的に生かされると考える。

以上、大きく内容研究と方法研究に分け、内容研究の面からは子どもに学びとらせる教材の構成を方法研究の面からは子どもに学びとらせる学習の展開を取り上げ、子どもに着眼点を当てた研究としたいのである。

また、この両者の研究が独立した形で研究されるのではなく、相互に働き合い、関連し合いながら進める研究としたい。

## III 研究の具体的視点

## 1. 教材の構成

- (1) 豊かな人間性を育てる上での教材の価値
  - ・育てたい数学的な考え方、身につかせる知識・技能（経験させたい活動も含む）
- (2) 子どもをみつめる
  - ・子どもの能力、思考傾向などレデネス
  - ・子どもの興味、関心、疑問
  - ・子どもの論理の進み方
  - ・子どもの可能、数学的なアイデア
- (3) 教材の精選・吟味・開発
  - ・指導内容の統合的把握、重点
  - ・基礎的、基本的内容の重視
- (4) 学習の組み立て
  - ・題材全体を見通した教材の構成
  - ・子どもが生きる1単位時間の構成

## 2. 学習の展開

- 意欲が生まれ、思考に広がりがあり、意味豊かで、課題性のある教材の与え方
- 子どもが考えたり、具体的に操作したりなど場の設定
- 子どもたちどうしがねり上げていく個と集団の関わり合い
- 学び合うコミュニケーション
- 学びとった喜びの自覚のさせ方、子どもの自己評価
- 次時への意欲を高める工夫
- 教師の助言、指導、軌道修正など望ましいはたらきかけ
- 見方や考え方、情意面を含めた評価
- ノートの指導や活用についての問題

## 研究の具体化を志向して

### 1. 第一年次研究としての研究の具体化

子どもに学びとらせる教材の構成と学習の展開をするには、「子どもがどう思考し、どう活動するかを、まず、教師が充分把握しなければならぬ」ということです。子どもの追求の有様など子どもの「学び」についての研究が希薄であった点を反省し、子どもに着眼点を当てた研究の大切さが両確認されました。

つまり、「子どもの学びとりの追跡と確認」をして、子どもの学びとりを明らかにすべきでしょうし、「子どもの発達段階と教材のかかわり」を重視しなければならないとも考えます。

<具体化の主な内容>

① 子どもなりの論理性や数学的なアイデアを子どもがみつけ出す可能性をさぐる。

大人の論理ではなく、現実の子どもをみつめて「つまずきや疑問がどう生まれどう変容されて学びとって、発想がどう生まれどう活用されていくのか。」をさぐってみる必要があるのではないのでしょうか。

それが、単一時間の授業だけでなく、題材全体を通して、さらには、同領域内で特徴的な傾向をとらえたり、あるいは、子ども個人の発想の変遷をもとらえることができたなら、子どもに学びとらせる教材の構成に役立つ貴重な資料となるのではないかと考えます。

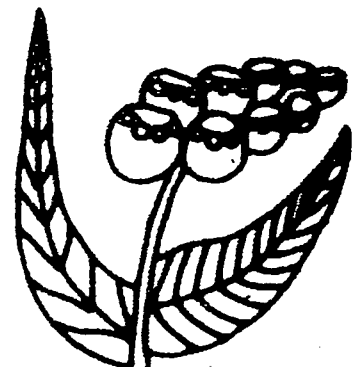
② どのように子どもに学びとらせる教材の構成をすべきかをさぐる。

- ・子どもをどのようにとらえたのか。
- ・指導内容の統合的な把握と重点化。
- ・教材の価値をどうとらえたか。

③ 子どもに学びとらせる学習の展開として何をすべきかをさぐる。

- ・教材の構成と関わりでとらえる。
- ・操作的な活動など場の設定の工夫。
- ・子どもに学びとった喜びをいかに自覚させるか。

第35大会は、新しい研究主題「豊かな人間性を育てる算数教育」をめざし、「子どもに学びとらせる教材の構成と学習の展開」を図る第一年次研究でありました。特に「子どもをみつめる」という視点に焦点を当てて研究が進められたのです。



## 2, 第二年次研究の具体化を志向して

## (1) 豊かな人間性を育てる上での教材の価値を明らかにする

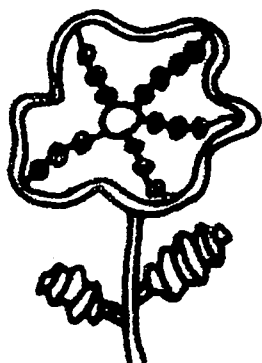
豊かな人間性を育てる算数教育をめざすためには、教師の指導観なり教育観に左右されるところが大きいと言える。人間形成上で、算数科の受けもっている役割を教師自身の意識として明確に持つことが大切であると考え。もっと具体的に言えば、子どもの人間形成と教材や本時の学習がどのように関連しているかを明確にとらえる必要があるということである。

9月大会でも、算数学習を通して、何を子どもに育てようとするのか、つまり豊かな人間性を育てるといふ窓からみた話題が多く出され問題視された。

そこで、人間形成とかかわりの深い数学的な考え方について(事象を数理的にとらえたり、論理的に考えたり、算数の内容に直接かかわるような例えば関数的な考え方など)、教師自身の指導観として明確にもち、教材の価値を明らかにしなければならぬと考える。具体的には、

- ① 算数教育のねうち・目的を明らかにして実践を進める。
- ② どんな数学的な考え方を育てようとするかを明らかにする。
- ③ 教材の価値をどう学びとらせるかという視点から実践を進める。

などを研究の視点とし、豊かな人間性を育てる上での教材の価値を明らかにし、第2年次研究を進めたいと考えている。



## (2) 子どもの学びとりの追跡と確認をする

子どもなりの考えをさぐり、それを生かした教材の構成がなされた。特に題材全体を見通す中で子どもをとらえようと研究が進められた点は成果としておさえたい。

しかし、その妥当性についての確かめは十分であるとは言えない。また子どもの疑問や発想がどう生まれ、どう活用され、どう変容していくかをより明確にとらえるためにも、その追跡と確認が必要である。つまり、

- ① 子どもなりの論理(子どもの考え)をとらえて教材の構成がなされたが、そのとらえの妥当性を追跡し確認する。
- ② 操作的な活動が重視されたが、操作の目的を明らかにし、どう子どもに生きていたのか、子どもの論理とどう結びついていったのかの追跡と確認をする。
- ③ 関心・態度など評価の問題が課題とされたが、子どもの学びとりの追跡と確認の中で明らかにする。
- ④ これらのことを、子どもの発達段階と教材のかかわりをみつめなおす手がかりとする。
- ⑤ 方法として、量的なとらえの他に、子どもの自己評価を生かしたり、教名の協力による追跡法も考えられる。

## (3) ねりあげていく個と集団の追求と学びあうことでの人間性の開発に着目する

集団の中で学びあうことでの人間性の陶冶も重視したい。協力しあう学習仲間、相吾扶助の力も豊かな人間性として必要である。

- ① 子ども個々人の数学的なアイデアの交流やつまずきの相互補正など、個から集団への働きかけ、集団から個への働きかけなどを大切にする子どもを期待する。
- ② ねりあげていく個と集団を考えていく時に当然ながら、教師の役割が問題視される。子どもにまかせる場と、それに応じた教師の出席についてみなおす。

# 北数教小学校部会会員名簿

(昭和56年6月1日現在)

## 札幌支部

<順不同，敬称略>

佐藤 昇 市(北陽)	小泉 良博(市教委)	一ノ関 忠昭(幌南)
大関 洋(太平南)	中畑 敏夫(みどり)	官武 和夫(信濃)
西村 光弘(平和通)	佐藤 懸(南白石)	小南 利光(附属)
伊藤 康弘(拓北)	上谷 俊晃(しらかば台)	太田 一雄(屯田南)
水落 元爾(新琴似南)	工藤 稔(札苗北)	中西 秀実(三角山)
北村 一彦(西野第二)	大辻 竜男(福井野)	笹森 宏(中央)
大宮 幸雄(南の沢)	千葉 頼男(栄南)	西出 稔(みどり)
荻野 忠則(北園)	藤田 正美(もみじ台西)	藤井 俊徳(新琴似緑)
宗岡 昇(幌西)	佐藤 英雄(北野)	西村 興起(発寒南)
南 嘉与子(澄川)	山本 春彦(もみじ台南)	西田 斉(新光)
熊倉 清(しらかば台)	深沢 孜(伏古)	佐々木 司(真駒内緑)
工藤 敏昭(東光)	川端 則和(真駒内南)	遠島 日出夫(上白石)
倉茂 節(曙)	佐藤 玉枝(北陽)	蛇川 輝行(三角山)
橋本 直美(菊水)	梶浦 孝純(駒岡)	船場 幸二(曙)
杉田 すみ子(南月寒)	横山 且(教文会館)	小笠原 清(もみじ台南)
池田 公夫(北都)	田中 浩二(菊水)	永田 勇(藤野)
山本 哲雄(真駒内緑)	長谷川 伊佐男(南郷)	志満 一郎(もみじ台西)
月沢 康男(発寒東)	成田 糊祐(厚別町)	山下 則幸(中沼)
風間 正男(二条)	佐々木 雅史(北九条)	鈴木 富士雄(真駒内緑)
芳川 政雄(山の手)	大沢 一(中の島)	小沢 美智子(栄南)
高木 札子(南月寒)	鈴木 善男(厚別町)	大坊 和八郎(厚別町)
須田 尚之(中)	庄司 正夫(幌東)	石川 俊男(創成)
今野 行雄(清田団地)	藤谷 竹与(タイムス)	棚川 森信( )
見上 敬子(手稲東)	小林 秀行(中の島)	勝山 登(北野台)
浜崎 松吉(共栄)	高杉 和秋(前田北)	河野 節哉(豊水)
星野 義直(本通)	沢野 展明(発寒東)	福沢 保(幌西)
岡部 義明(山鼻)	木下 陟(北光)	今沢 慶子(平岸)
佐藤 俊和(幌南)	松村 憲治(菊水)	官本 輝雄(丘珠)
門間 功(北白石)	白石 邦彦(太平)	藤原 勲夫(共栄)
小菅 真幸(創成)	諸留 正之(附属)	近藤 博幸(札苗北)
田中 観(新川)	岩田 貞夫(研究所)	大塚 雄二(東園)
岡田 茂(月寒西1)	吉田 俊雄(二十四軒)	朝井 秀己(明園)
三谷 勝敏(本町)	加賀谷 巧(明園)	柏木 照美(明園)
小熊 章善(八軒)	荻原 周司(明園)	武田 裕二(明園)
杉本 典子(南白石)	田中 隆(菊水)	鈴木 英昭(豊水)



山口 英治(ひびりか丘), 太田 之夫(あゆみ幼), 大林 豊(曙)  
 黒氏 一(山の手), 佐藤 ひとみ(拓北), 山内 邦夫(南白石)  
 土屋 隆(北都), 大滝 政弘(平和通), 佐々木 和雄(白石)  
 江田 欽一(月寒), 名古屋 英男(開成), 斎藤 信子(手稲宮丘)  
 若杉 一紀(福井野), 太田 正和(伏古), 松浦 治夫(北都)  
 谷山 正司(北都), 福家 一俊(みどり), 大江 則夫(屯田南)  
 星野 康(手稲中央), 古内 成敏(平和通), 島山 則昭(発寒東)  
 石崎 三千男(大通), 山本 悦子(大通), 武田 忠子(大通)  
 小原 直(創成), 浜出 真樹(西野第二), 桜井 俊一(北光)  
 小岩 芳政(ひびりか丘), 高橋 良治(北白石), 別役 政雄(北)  
 鳥羽 進(緑丘), 小松 借子(手稲北), 中谷 優子(東光)  
 熊谷 敏夫(北九条), 木津 和彦(北野台), 大場 孝夫(附属)  
 筒井 義博(太平南), 山下 松蔵(研究所), 伊藤 博司(北野)  
 野尻 和孝(福住), 三浦 正俊(真駒内緑), 塚本 文人(真駒内緑)  
 田中 秀典(幌南), 前田 勇(石山), 三好 実(豊平)  
 小川原 和則(月寒東), 豊田 茂(白楊), 渡辺 聡(幌南)  
 見原 幸房(新琴似南), 長谷部 照子(みどり), 宮松 英一(小野幌)  
 猪狩 秀一(北都), 池田 静治(緑丘), 岩井 雄三(北園)  
 照井 孝夫(山の手), 水島 誠治(八軒西), 外山 五郎(大倉山)

### 石狩支部

一ノ関 彰(江別伏麻泉), 阿部 光男(江別伏麻泉), 高橋 英和(石狩花川)  
 太田 宏(江別第二), 疋田 恒男(広島西の里), 月田 健二(江別伏麻西)  
 山本 佳夫(広島高台), 石田 昭男(石狩若葉), 西家 健悦(石狩初晴)  
 田仲 孝(江別角山), 太田 友昭(江別中央), 平本 重徳(江別江別)  
 佐藤 仁孝(広島高台), 川島 幹衛(広島東部), 時田 幸忠(石狩紅葉山)  
 三浦 哲雄(恵庭和光), 川本 清司(恵庭和光), 吉田 由紀子(千才信濃)

### 石狩地区

田代 繁(千才日の出), 中野 都志伸(千才日の出)

### 函館地区

渡辺 房夫(函館深堀), 武藤 智光(函館西の里), 成田 誠二(函館大森)  
 小川 功二(函館大森), 藤谷 利春(函館中島), 東 隆雄(函館中島)  
 真田 幸祐(函館港), 本間 峰雄(函館背柳), 伊藤 皓嗣(函館中央)  
 佐藤 武明(函館本通), 深栖 逸夫(函館駒場), 橋本 亮二(函館上湯川)  
 斎藤 憲正(函館八幡), 西山 達也(函館北白吉), 奥谷 雅雄(函館高丘)  
 林 啓子(函館中央), 吉田 訓(函館中央), 高橋 政弘(函館深堀)  
 斎藤 孝(八雲八雲), 田畑 真理(函館中央), 石垣 博(函館駒場)  
 栗山 幸雄(函館附属), 郡 司多智子(函館中央), 酒谷 資明(函館中央)

深 栖 久 幸(函館深堀), 川 島 啓 右(函館高丘), 池 田 佳寿子(函館旭岡)  
 鈴 木 誠 治(七飯大中山), 河 上 美 明(函館巴), 森 昭(函館亀尾)

旭川地区

水 上 幸 信(旭川附属), 平 田 亨(旭川附属), 瀬 波 金 直(旭川附属)  
 東 森 孝 夫(永山西), 山 田 仁 丸(永山), 越 湖 馨(神居)  
 佐 藤 卓 治(東光), 平 山 武(大有), 後 路 和 美(知新)  
 牧 登(正和), 森 本 裕(神居東), 安 友 進 市(上川上川)  
 吉 田 清 一(当麻開明), 官 崎 元(上川上川), 金 子 俊 明(上川上川)  
 朝 倉 信(上川上川), 巖 野 宝 薫(東神志比内)

釧路地区

本 間 惟 義( ), 石 黒 重 昭(愛国), 阿 部 孝 策(白樺台)  
 高 田 郁(湖畔), 梶 清(白樺台), 森 田 邦 道(旭)  
 秦 繁 治(清 明), 速 和 利(桜ヶ丘), 奥 瀬 正 弘(城 山)  
 中 川 邦 雄(湖畔), 合 田 悟(美 原), 安 藤 敏 雄(昭 和)

小樽地区

高 橋 和 之(幸), 薄 田 朝 生(手官西), 児 玉 彬(最 上)  
 高 木 正 一(堺), 小 松 美 夫(桂 岡), 坪 田 栄一郎(色 内)  
 金 沢 直 美(手 官)

苫小牧地区

斎 藤 三 男(澄 川), 東 頭 茂(若 草), 山 崎 一(西)  
 高 橋 秀 行(錦 岡)

胆振地区

小 泉 光 男(室蘭白鳥台), 林 俊 彦(白老緑丘), 高 橋 正 己(社醫社醫)  
 秦 武 将(登別若草), 中 田 晶 雄(室蘭白鳥台), 斎 藤 せい(登別宮岸)  
 松 谷 精 一(ニセコ福井)

空知地区

未 原 宏(砂川砂川), 椿 勝(芦別芦別), 笹 谷 勇三郎(秩父別)  
 三 平 敏(砂川砂川), 原 進(深川納内), 渡 辺 武(深川納内)

◆ 十勝地区

東原 栄(本別中央), 葛西 猛(帯広大空), 藤野 健一(女満別豊住)

◆ 根室地区

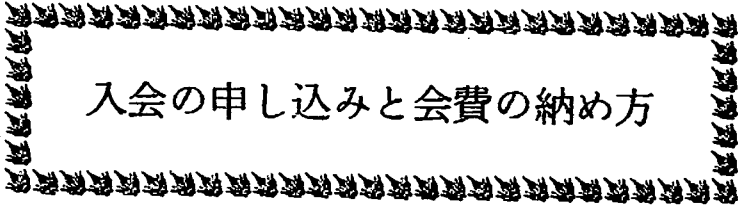
森定 久(別海豊原), 吉田 篤信(中標津), 一条 邦男(中標津)  
西鳥羽 公夫(標津), 相馬 勝則(別海中央), 大場 万(根室厚床)

◆ 留萌 - 宗谷地区

島 洋輔(天塩円山), 高木 満(増毛), 山村 礼三郎(天塩産士)  
渥 美敏郎(稚内中央)

◆ 名寄地区

高森 幸代(名寄豊西), 生駒 真人(名寄南), 藤木 友善(名寄南)

入会の申し込みと会費の納め方

新しく会員になりたい方、及び既に会員の方で本年度分未納の方は、直接担当者に納入するか、郵便振替によって会費を納入してください。払込み通知が届きしだい会員証・領収書をお送りいたします。  
(郵便振替) 口座番号～小梅15527 加入者名～北海道算教数学教育会小学校部会

年間会費1000円